ふるさと再発見 第94回

Re:discovery Omihachiman

安土城築城450年⑦

城下町とその暮らし

安土山の南西側にあたる安土町下豊浦・上豊浦・常楽寺あたりはかつて安土城の城下町が広がっていました。城下町では楽市楽座の賑わいや、相撲の開催、左義長、盂蘭盆会（うらぼんえ）などのイベントを人々が楽しんだと思われます。今回は城下町に焦点を当て、紹介します。

さて、「城下町」という呼称は江戸時代以降の呼び方であり、信長がいた時代は城がある山そのものをお城と考え、安土城＝安土山を指していました。そして、城下町や山のふもとにある町は山下町（やましたまち・さんげちょう）という名称で、安土城下町は安土山下町と呼ばれていました。信長は楽市楽座に関する内容が記載される『安土山下町中掟書』（重要文化財）を出しています。この掟書でも「山下町」と呼んでいたことが読み取れます。



安土山下町中掟書

信長は城下町を造るにあたり、大規模な造成工事を行っています。天正８（1580）年の『信長公記』に「（安土城の）西北海の口に舟入（ふないり）所々にほらせ、請取の手前手前に木竹を植（う）ゑさせ、その上に堀を塡（う）めさせ、各屋敷下され候」と記載があり、武家の高山右近、日根野一族、金森長近ら十四名の名が挙げられています。この場所は現在の小字「高山」「備中」「金森」と考えられ、城下町北側に彼らの屋敷地を造成していることが読み取れます。造成した場所の水路と道路の間を短冊状に分け、屋敷地とした地割がありました。この構造は城下町の北側のみでなく、安土山の南側でも確認することができます。南側も同様の構造であるため、家臣団の屋敷地と想定できます。そして安土の武家屋敷の特徴としてもう1点あげられるのが「舟入（ふないり）」です。信長は屋敷に船をつけることができるようにしており、水上交通を重視していたようです。

本市では安土城下町遺跡として発掘を行っており、当時の人々の暮らしについて調査を行っています。発掘調査の出土遺物は土器や陶磁器が中心となります。この当時、世間で茶の湯が流行しており、発掘調査で出土した遺物に天目（てんもく）茶碗や茶入れ、茶釜などの茶の湯に関する道具があり城下町でも流行っていたことがわかります。このほかにも日常雑器の土師器（はじき）皿、調理道具の擂鉢（すりばち）や食材を炒るために使用する焙烙（ほうろく）、輸入陶磁器などが出土しており当時の生活が垣間見えます。普段の生活に流行も取り入れた様子も興味深いものです。

文（文化振興課・山田）



安土城下町遺跡より出土した遺物

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課
〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236
TEL：0748(33)3111　FAX：0748(32)2695
MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp
WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp

●インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ or ノンVOCインキ）
●印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

YouTube　Instagram　マチイロ　マイ広報紙　LINE

人口と世帯

令和8年9月1日現在
（　）は前月比

総数	81,704人	(+ 26)
男	40,174人	(+ 9)
女	41,530人	(+ 17)
世帯	36,747世帯	(+ 57)

※外国人住民（43か国・地域／2,438人）を含みます。